

水産業競争力強化緊急施設整備事業事後評価報告書

		山口県農林水産部 漁港漁場整備課	
目的	競争力強化		
目標	加工流通構造改善目標	3-1	
事業実施主体	山口県漁業協同組合（吉佐統括支店）		
実施地区	吉佐地区		
実施期間及び目標年度	実施期間	目標年度	
	令和3年度、令和4年度	令和5年度	
助成金額	102,500,000円		
事業計画の内容	荷捌き施設の整備		
評価	取組の目標（KPI）		
	基準年	（平成29年度時点） 2,010千円	
	現状値	（令和5年度末時点） 2,076千円	増加率 3%
	目標値	（令和5年度末） 2,211千円	増加率 10%
	成果目標	防府市場取扱量の増加	
	現状値	（令和5年度末時点） 601.8トン/年	
	目標値	（令和5年度末） 817トン/年	
	（1）現状値の説明	KPIは浜の活力再生プランの所得目標に基づき10%向上、成果目標は秋穂市場の機能を集約、衛生管理機能の向上等による防府市場への水産物の集積を見込み817トン/年に設定。 しかし、燃油・資材の高騰による漁業コストの増加・夏場の台風による出漁機会の減少、予期しない組合員の減少により、現状値はKPIが2,076千円、成果目標は601.8トンにとどまっている。	
	（2）地域への経済効果	今般の整備により、高度衛生管理市場として、出荷先でもある隣接する「道の駅潮彩市場」の来客数の増加及び県内外からの関係機関による視察数も増加し、これに伴いハモを代表とする地元水産物とその加工品や市の主要観光施設である「道の駅潮彩市場」・「メバル公園」等のPRを実施することで認知度が向上し、地元の観光産業の発展に寄与している。	
（4）所見	市場取扱量は目標値には達していないが、防鳥ネットの整備による鳥類侵入の減少、紫外線殺菌海水装置の整備による衛生管理の強化及び大量出荷魚種の買い支えによる単価の安定など一定の成果を果たしている。引き続き、地域の拠点市場としての役割を果たし、市場取扱量の増加・漁業所得向上のための多方面からの取組を継続する。		
（5）評価機関の意見等	—		
今後の改善方向等に関する分析	<p>目標値に達しなかった原因として、買受人の人数が停滞していること、魚離れによる需要の低下等が挙げられる。</p> <p>このため、買受人の新規参入を目的とした定期的な公募、大量出荷魚種（マダイ、ズズキ等）の買い支えを継続して実施。また、本市場の強みである隣接する道の駅潮彩市場及びその加工場を活用し、県内屈指の観光名所である山口市湯田温泉ホテル・飲食店へのインバウンド需要※の取り込み、エソやアイゴ等の未利用魚種の加工・商品開発による新たな需要の創出、イベント開催時に地元水産物を利用した商品の試食販売等を通じて魚食普及を図っていく。</p> <p>併せて、価格形成に相対的に影響する生産力の向上のため、資源増加を目的とした、自主規制等の資源管理の徹底・漁業者からの要望の高い魚種の種苗放流による資源添加・新たな地域の特産品に成り得るマガキ養殖への支援、漁業人材の確保育成のため新規就業支援フェアへの出展にも引き続き取り組んでいく。</p> <p>※ニューヨークタイムズ紙が発表した「2024年に行くべき52ヵ所」に世界各地の旅行先の中から3番目に選出</p>		